



脱炭素社会に向けて求められる 企業の責務と解決へのヒント！

～カーボンニュートラルを実現するDX～

2021年 10月 15日

NECソリューションイノベータ株式会社

アジェンダ

脱炭素社会に向けて求められる企業の責務と解決へのヒント！
～カーボンニュートラルを実現するDX～

1. カーボンニュートラルとは

- ・カーボンニュートラルに向けた世界や日本の情勢
- ・企業に求められる社会的責任

2. 具体的な企業の取組事例

- ・各業種の代表的な取組事例
- ・NECの取組事例

3. カーボンニュートラルを実現するDXの推進

- ・DX推進に向けた企業の課題
- ・DX推進への企業の変革方向性

4. DXクイックアセスメントのご紹介

- ・DXクイックアセスメントの特長や進め方

講師紹介

講師プロフィール

講師名 **中村 哲也** (Nakamura Tetsuya)
所属 **NECソリューションイノベータ株式会社**
営業統括本部コンサルティンググループ プロフェッショナル
専門分野・取得資格等 システム構想企画、RFP策定支援、ITアセスメント
DXアセスメント、その他各種コンサルティング
中小企業診断士、システムアナリスト、システム監査技術者
プロジェクトマネージャー（経済産業省認定）



経歴

1985年NECソリューションイノベータ（旧 NECソフトウェア九州）入社。

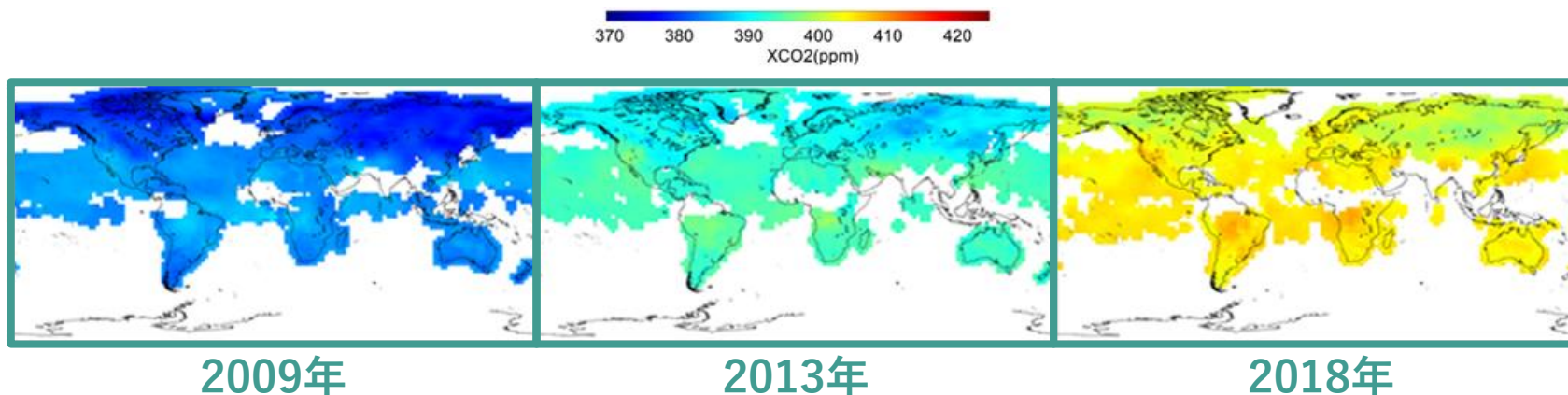
流通業、製造業などの大型システム構築・プロジェクトマネジメントを経て2000年よりシステムコンサルタントとして活動。

幅広い経営知識×テクノロジーの視点を持ち、「お客様のビジネスを次のステージに導く」をモットーに、どのようなシステムにすべきかを描くシステム企画やデジタル活用の新サービス創出、新事業創出支援など様々なアプローチで業種問わず多くのお客様の変革に関わる。

カーボンニュートラルとは

地球温暖化の状況

◆ 増加し続ける二酸化炭素（CO2）濃度



温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」の観測画像

◆ 地球温暖化による様々な影響



海面水位の上昇



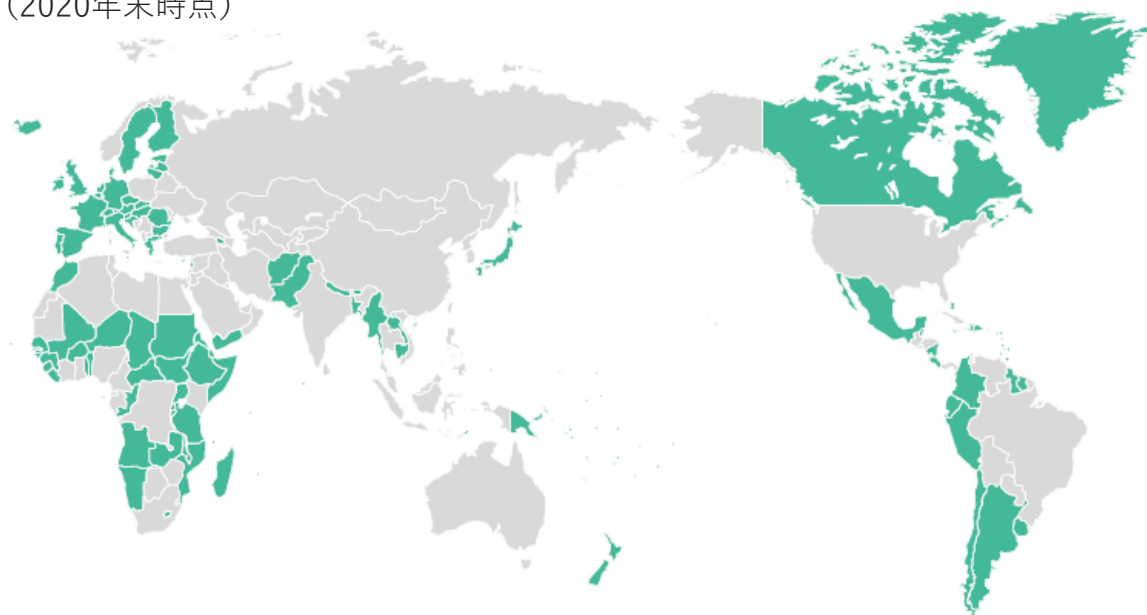
農作物への影響

カーボンニュートラルに関する世界情勢

- ◆ 2015年－パリ協定～産業革命以前から気温上昇を1.5~2℃以内に抑制
 - ◆ 2019年－Climate Ambition Alliance※: Net Zero 2050連盟構築
 - ◆ これまで121か国及びEUが参加
- ※国連気候行動サミットで採択された気候変動対策の連盟

※国連気候行動サミットで採択された削減目標と対策を強化する連盟

※緑色が参加国（2020年末時点）

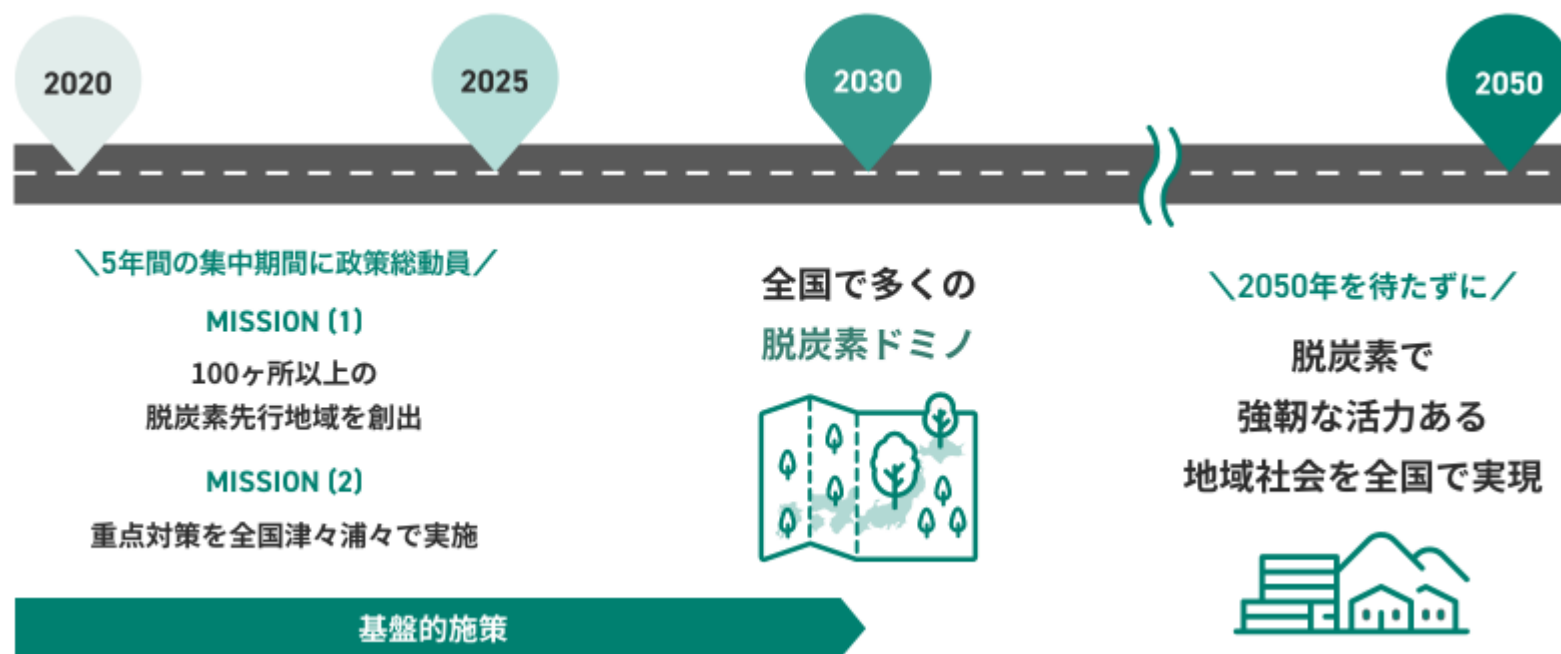


- ◆ 米国：2035年の電力脱炭素の達成、2050年のネット排出ゼロ※を表明
- ◆ 中国：国連総会演説で習近平は2060年カーボンニュートラル※を表明

※排出量から吸収量と除去量を差し引いた合計をゼロにするもの（同義）

カーボンニュートラルへの日本の取組

- ◆ 政府は、日本が2050年にカーボンニュートラルを目指すことを宣言
- ◆ 成長戦略の柱に経済と環境の好循環を掲げ、グリーン社会の実現に注力
- ◆ 国と地域が連携し、地域脱炭素を進めて、地域の魅力と質を向上させる地方創生に貢献



環境省「地域脱炭素ロードマップ」

企業に求められる社会的責任

◆ 地球温暖化対策推進法の改正



ESG投資※にもつながる
企業の排出量情報のオープン化

- ・企業の温室効果ガス排出量報告をデジタル化、公表までの期間を短縮
(特定事業者(エネルギー使用量が年間で1500KL以上)に定期報告義務)

※ESG投資：環境、社会、ガバナンスを重視した投資手法

◆ 環境経営への取組を要請



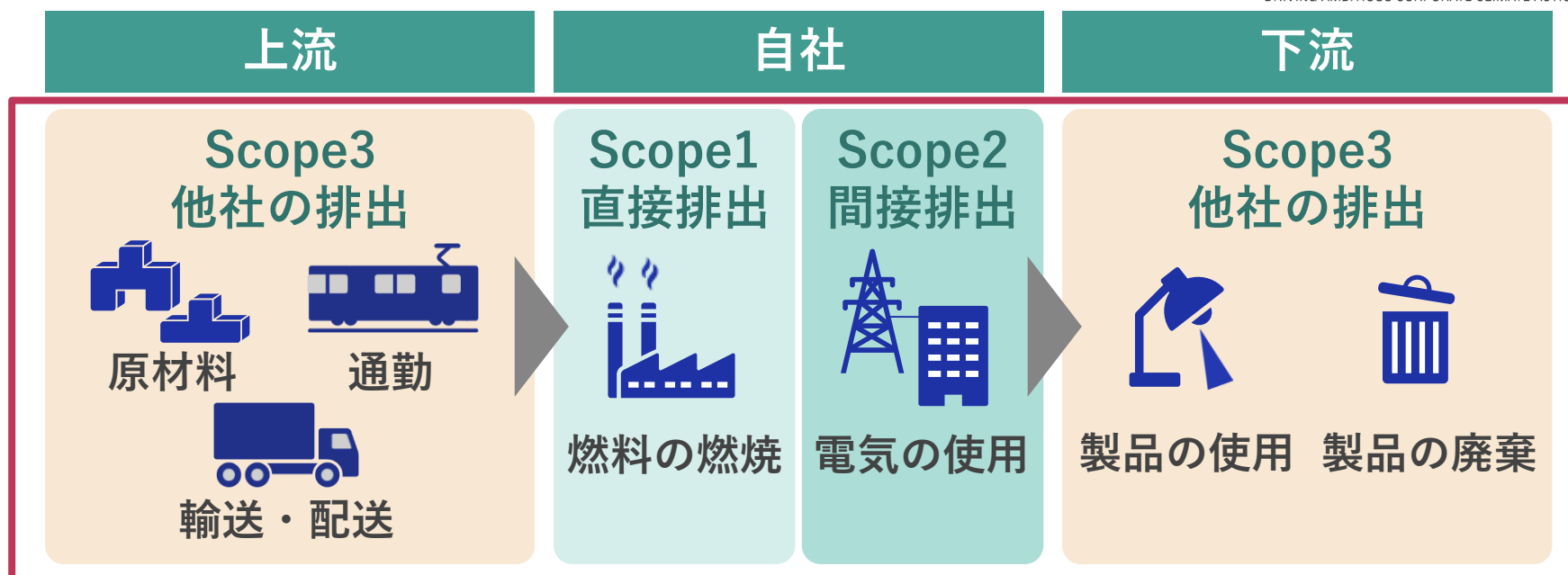
環境負荷を低下させる
社会的責任を要請

- ・環境経営の取組を公表することで、顧客や投資家から高い評価を獲得し、企業のイメージ向上を実現
- ・社会的信用を得ることで、長期的な顧客の獲得にも有効

バリューチェーン全体への要請拡大

- ◆ SBT※は、企業が温室効果ガス排出削減目標を設定する国際イニシアチブ
- ◆ 企業は、5年～15年先を目標年として、削減目標を設定
- ◆ それは、企業バリューチェーン全体での排出量削減を目標としており、カーボンニュートラルの取組は、大企業のみでなく、中堅・中小企業にも波及

※世界資源研究所等が設立運営する組織、日本で120社以上が加盟（2021/3月時点）

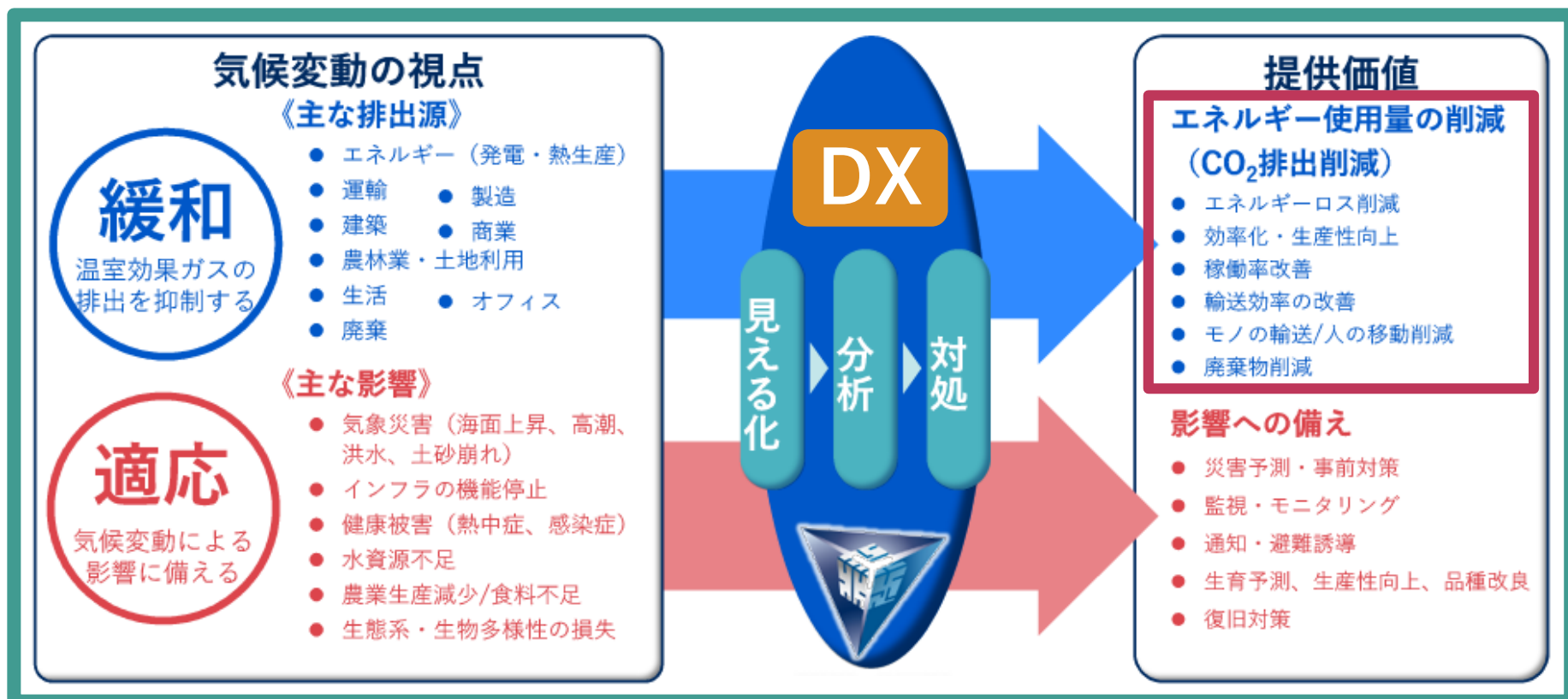


具体的な企業の取組事例

各業種の事例については、画面のみのご説明とさせていただきます。

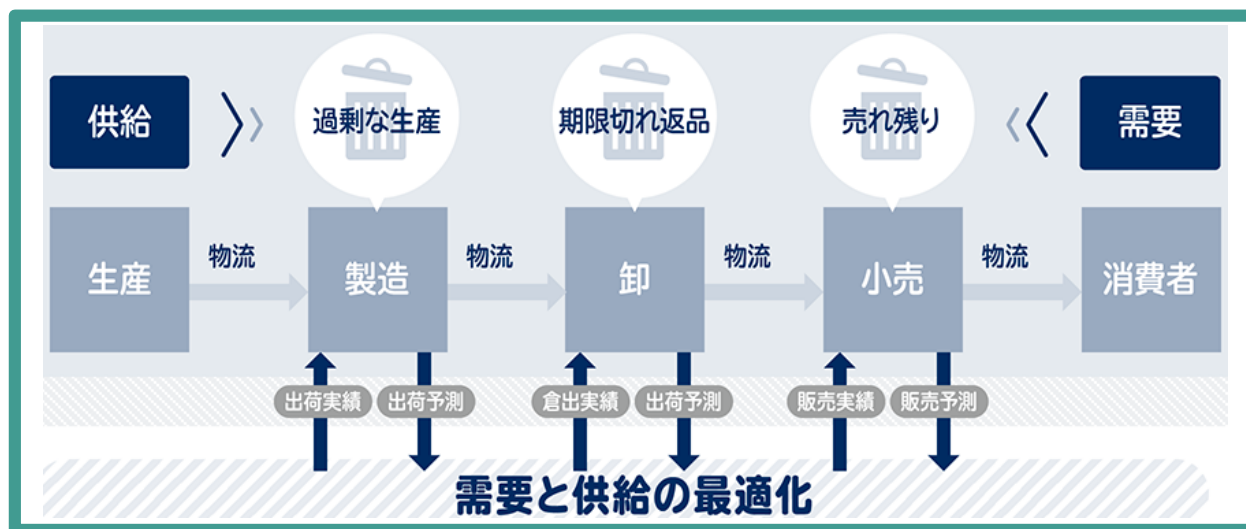
NECの事例

- ◆ 気候変動の「緩和」と「適応」の視点から、様々な取組により、価値を提供し、お客様との持続可能な社会の共創を目指す
- ◆ 「緩和」の視点では、DXの活用により、効率化・生産性向上を図り、エネルギー使用量を削減



NECの事例（CO2排出削減につながるDXソリューション）

タイトル	需給最適化プラットフォーム
概要	バリューチェーンチェーン全体の需要と供給の最適化を実現。WhiteBOX型※のAIを採用、企業全体で販売や在庫の情報を共有・活用することで需要予測精度を向上。 ※異種混合学習など、データ間の相関関係を導くもの
成果	■ 食品ロス削減、収益向上に貢献 ■ エネルギー使用の無駄を排除



NECの事例（CO2排出削減につながるDXソリューション）

タイトル	物流可視化サービス（インド）
概要	輸送中のコンテナの正確な位置情報をリアルタイムに確認。 効率的な輸送で、化石燃料の使用量削減に貢献。 モーダルシフト※を加速し、大幅なCO2削減を推進。 ※トラックによる輸送を大量輸送が可能な海運または鉄道に転換すること
成果	■ 2021年現在、流通するコンテナの95%超を可視化 ■ 輸送リードタイム短縮・在庫削減・生産計画精度向上を実現



企業の取組事例サマリ

◆ 本ご紹介した、企業のカーボンニュートラルへの取組は、大きく2つの枠組みに整理されます。

クリーンエネルギー の活用拡大

CCS/CCUS

再生可能エネルギー

マイクログリッド

電気自動車

モーダルシフト

PPA

事業の効率化による エネルギー消費の削減

IoT活用品質強化

ZEB

ICT活用配送効率化

需給最適化
プラットフォーム

物流可視化サービス

カーボンニュートラルを実現するDXの推進

カーボンニュートラルを実現するDXの推進

- ◆ カーボンニュートラルを実現する取組みの一つとして、事業の効率化により企業のエネルギー消費量を削減する、DXの推進が有効

カーボンニュートラルへの主要な取組み

クリーンエネルギー
の活用拡大

事業の効率化による
エネルギー消費の削減

DX推進による実現

デジタルテクノロジーを駆使してビジネスプロセスを効率化

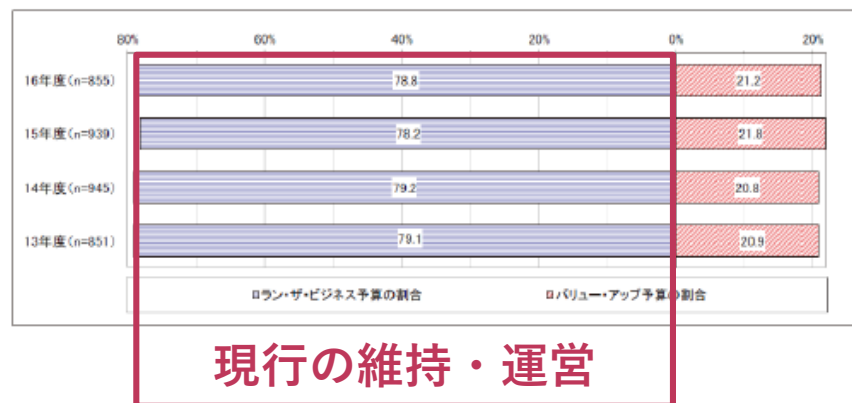


DX Digital Transformation

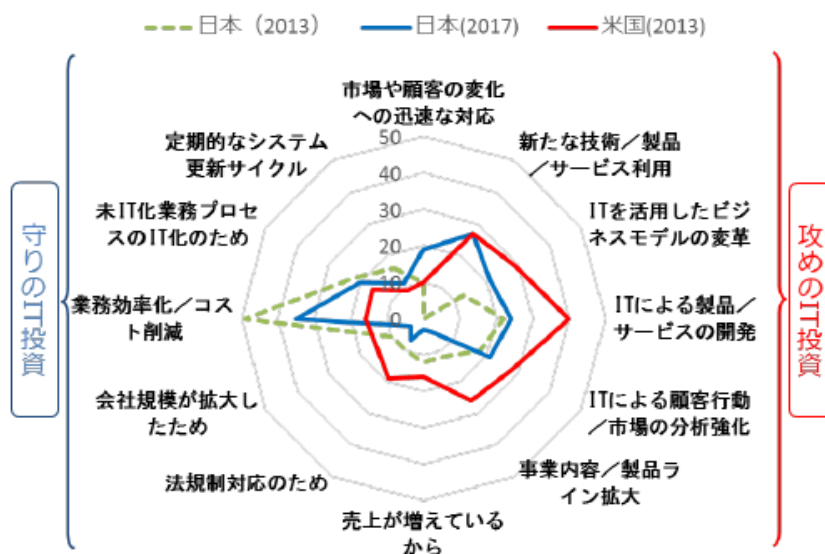
DX推進に向けた課題（IT環境）

- ◆ 一方、DXの推進に向けて、企業には様々な課題が内在
- ◆ 日本企業のIT関連費用の80%は現行ビジネスの維持・運営に充当、その結果、戦略的なIT投資に資金・人材を振り向けられていない課題が発生

現状の維持・運営予算が8割



日本は守りのIT投資が中心



(出典) 一般社団法人電子情報技術産業協会「2017年国内企業のIT経営」に関する調査（2018年1月）より

DX推進に向けた課題（ITマネジメント）

- ◆ マネジメント視点では、DX推進に関する、各層の不明確なミッションやスキルの不足が課題となり、新しい取り組みを阻害

経営層の視点

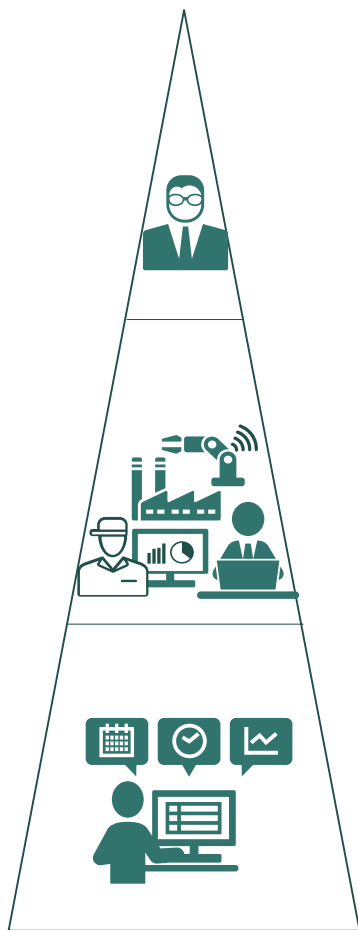
- DX推進に関する、経営層の関与は低く、システムの刷新に対する、**経営層のコミットが不足**している

事業部門・情報システム部門の視点

- 事業部門と情報システム部門の**役割分担が不明確**であり、コミュニケーションが十分にとられていない

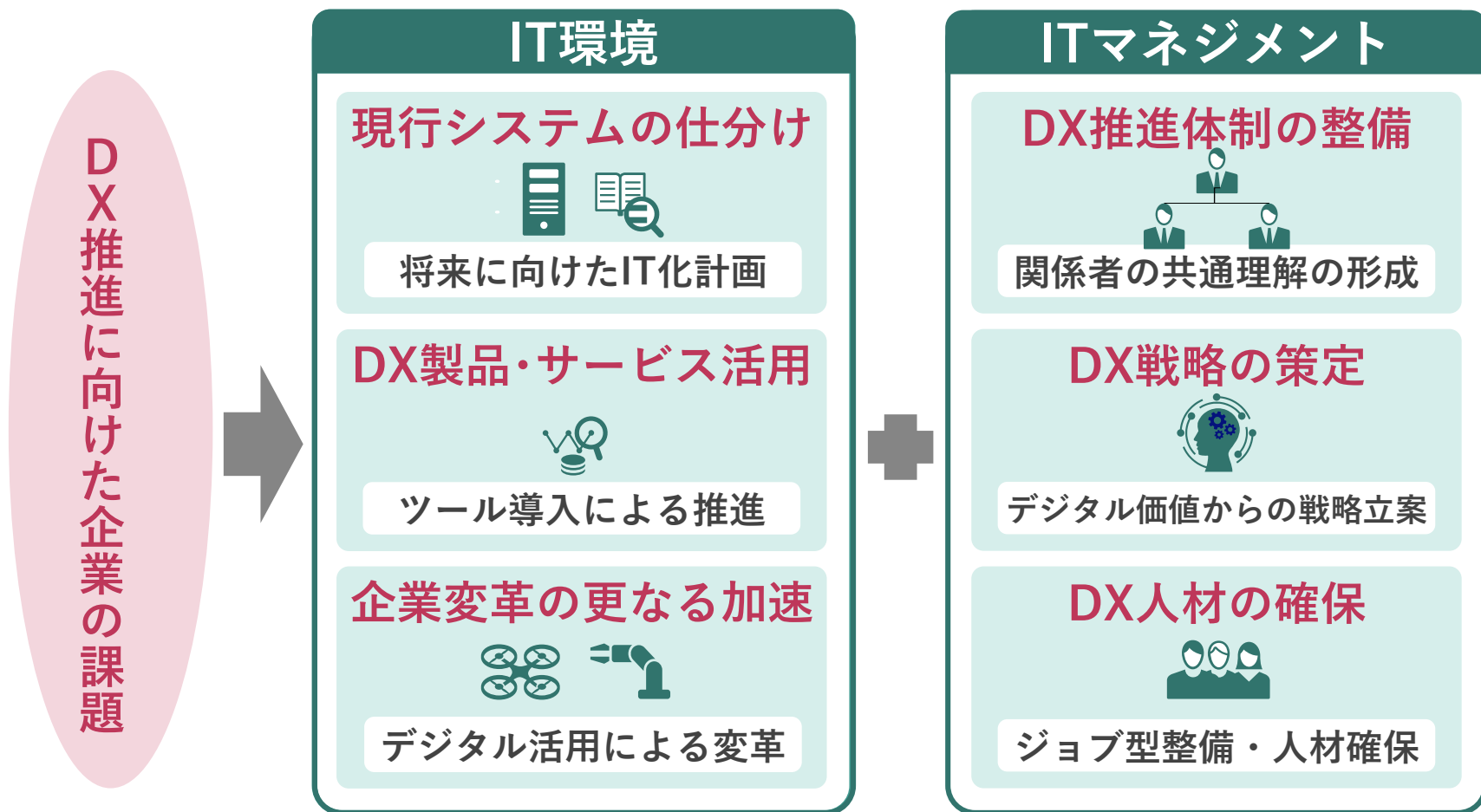
IT人材の視点

- 会社の中にシステムに精通した人やプロジェクトを**マネジメントできる人材が不足**している



DX推進への企業の変革方向性

- ◆ 企業の課題を克服し、DXを加速させるシナリオとして、IT環境の整備と活用の高度化、およびITマネジメントの強化が必要



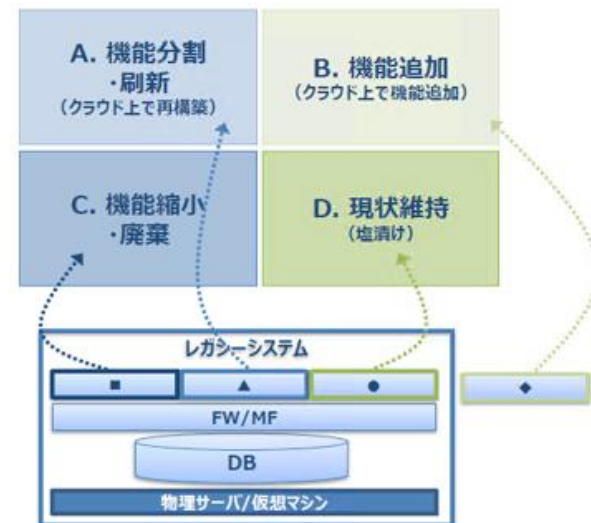
DX推進への情報システムの方向性

IT環境	ITマネジメント
現行システムの仕分け	DX推進体制の整備
DX製品・サービス活用	DX戦略の策定
企業変革の更なる加速	DX人材の確保

- ◆ 既存システムを残存することによるリスクは、年々増加する方向にあり、企業は、新たなシステム環境へのシフトを検討

現行システムの仕分け

- 情報資産の現状を分析・評価し、仕分けを実施しながら戦略的なシステム刷新を推進する



DX活用・企業変革の更なる加速

- コロナ禍を契機に従業員や顧客の安全を守りながら事業継続を可能とする、デジタル製品・サービスの活用を検討する
- 競争領域を担うシステム構築は、仮説・検証を俊敏に実施するため、アジャイルな開発手法を導入する方向性が望まれる

DX推進体制の整備

IT環境	ITマネジメント
現行システムの仕分け	DX推進体制の整備
DX製品・サービス活用	DX戦略の策定
企業変革の更なる加速	DX人材の確保

- ◆ DXの推進は、経営層・事業部門・IT部門を含めた全社体制で行う必要があり、各層の役割や権限を明確にし、体制を整備



DX推進に向けた関係者間の共通理解の形成

- DXが自社のビジネスにどのように役立つか、どのように進めるか等、**経営層・事業部門・IT部門が対話を通じて、共通理解を形成する**



CIO/CDXO※の役割・権限等の明確化

※Chief DX Officer

- 経営資源の配分について経営トップと対話し、**デジタルを戦略的に活用する提案や施策をリード**できる経営層を設置する

Chief
DX
Officer

全社横断の
ビジネス変革

ITを活かした「ビジネスモデルの変革」、
「ビジネスプロセスの変革」を推進

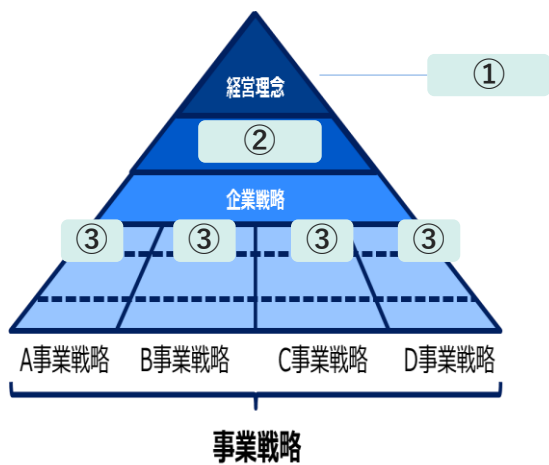
DX推進組織の検討

IT環境	ITマネジメント
現行システムの仕分け	DX推進体制の整備
DX製品・サービス活用	DX戦略の策定
企業変革の更なる加速	DX人材の確保

- ◆ 全社を巻き込んだ推進基盤の検討が必要、下記のパターンをハイブリットするケースもあるが、各組織の役割を明確にすることが重要

体制

- ① 独立専門組織を設置する（集中）
- ② IT／経営部門にDX推進機能を拡張する（集中）
- ③ 事業部門にDX推進メンバーを配置する（分散）

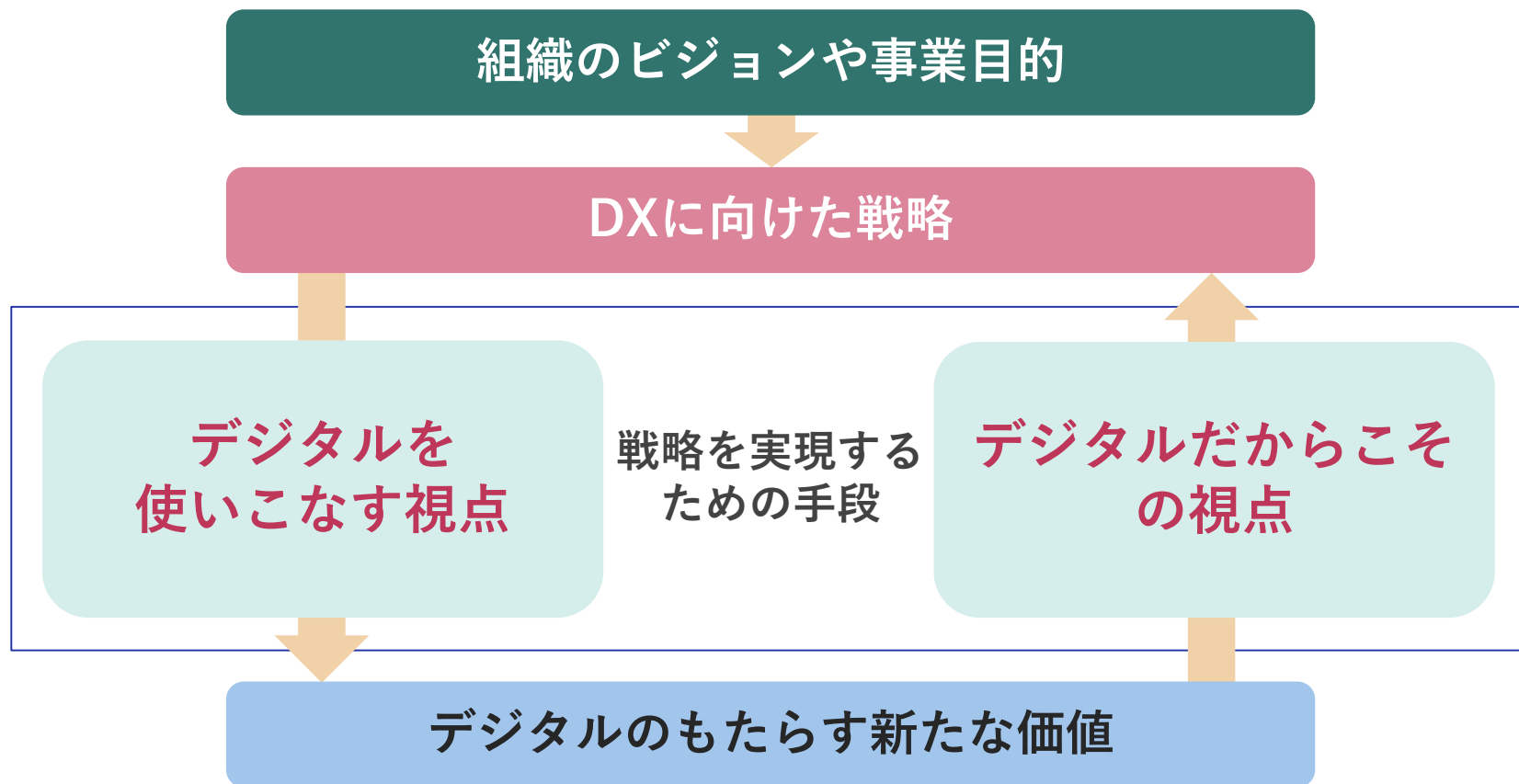


	メリット	デメリット
①	- 強力なトップダウン - 具体的なKGI／KPIがある	- 事業部門の協力が得られない - 手段が目的化する
②	- 経営／IT戦略との整合できる - ハード整備が比較的容易である	- 既存業務の負荷・バランスが崩れる - 現場ハレーションのリスクがある
③	- ボトムアップによる課題解決 - 事業遂行に必要な最適化が図れる	- 事業との優先度／活動停滞する - 部分最適のリスクがある

DX戦略の策定

IT環境	ITマネジメント
現行システムの仕分け	DX推進体制の整備
DX製品・サービス活用	DX戦略の策定
企業変革の更なる加速	DX人材の確保

- ◆ 企業は経営とITが表裏一体であるとの認識を持ち、デジタルのもたらす新たな価値を踏まえ、2つの視点に基づいて、DX戦略を立案

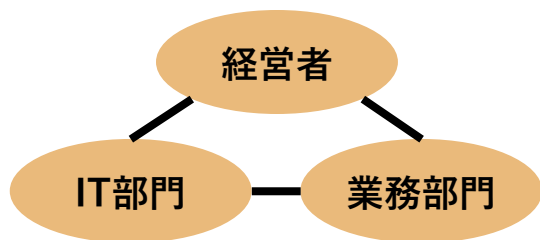


DX戦略の立案・展開

IT環境	ITマネジメント
現行システムの仕分け	DX推進体制の整備
DX製品・サービス活用	DX戦略の策定
企業変革の更なる加速	DX人材の確保

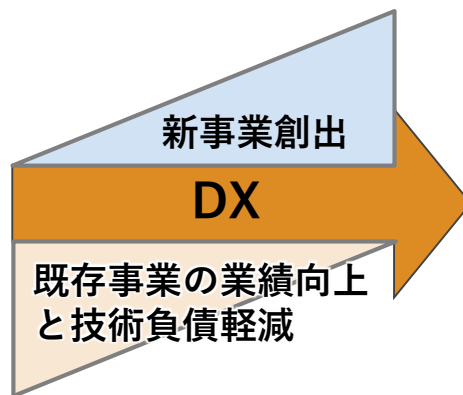
- ◆ DXに向けた戦略の立案・展開にあたっては、下記の3戦略の検討を行う必要があり、他の成功パターン等を参考に実施する事が有効

組織戦略



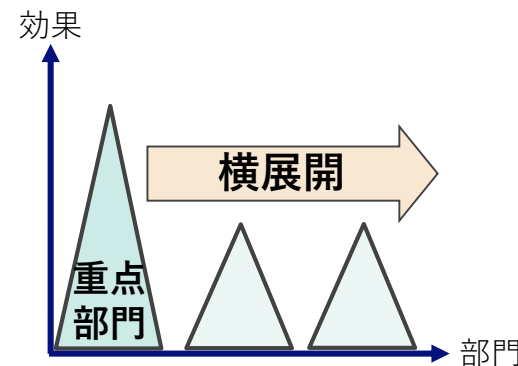
- ✓ 企業全体の方針を決めるにあたり、経営者・IT部門・業務部門が対話し、共通認識を持っておく

事業戦略



- ✓ 既存事業の見直しにより生まれた投資余力を新事業の創出にあてる
- ✓ 両事業の投資バランスは、社内で予め決めておく

推進戦略



- ✓ アジャイル的なDX推進により、段階ごとにスピード感を持ってDXを実施する

DX人材の確保

IT環境	ITマネジメント
現行システムの仕分け	DX推進体制の整備
DX製品・サービス活用	DX戦略の策定
企業変革の更なる加速	DX人材の確保

- ◆ DXの円滑な推進は、企業が自ら変革を主導する事により可能
- ◆ DXを推進する人材を外部に任せるのではなく、自ら確保する事が重要



ジョブ型人事制度※の拡大

※特定の業務のために専門職を採用し、成果によって雇用の継続や処遇が決まる仕組み

- ジョブ型雇用の考え方は、社外を含めた多様な人材が参画してコラボレーションするようなビジネス環境の整備において重要となる
- まずは**ジョブ（仕事の範囲、役割、責任）を明確**にし、成果の評価基準を定める事から始める



DX人材の確保

- 構想力を持ち、明確なビジョンを描き、自ら組織を牽引し、実行する事ができる人材が求められる
- 企業が市場に対して提案する価値を**現実のITシステムへと落とし込む技術者の役割が極めて重要**である

DX人材の人材タイプ例

IT環境	ITマネジメント
現行システムの仕分け	DX推進体制の整備
DX製品・サービス活用	DX戦略の策定
企業変革の更なる加速	DX人材の確保

◆ DX人材は、新しいビジネスモデルへの対応、既存ビジネスの発展への対応により、下記の2つの人材タイプに分割

◆ 狩猟型人材

- 新しいビジネスをクリエイティブにつくる
- 発散思考で、さまざまな道をつくる
- 経験を積んで、シナリオをたくさんつくる
- 周囲が気づかないオリジナルのゴールと道を定義する
- 新規でも既存ビジネスでも、最も合理的に仕事を進める方法を発見できる
- アーキテクチャづくりに強い
- 経験を積んで、アーキテクチャの範囲をビジネス、組織、ICTに広げることができる

単にデジタル（ICTやテクノロジー）に適應するだけではなく、ビジネス創出できる人材

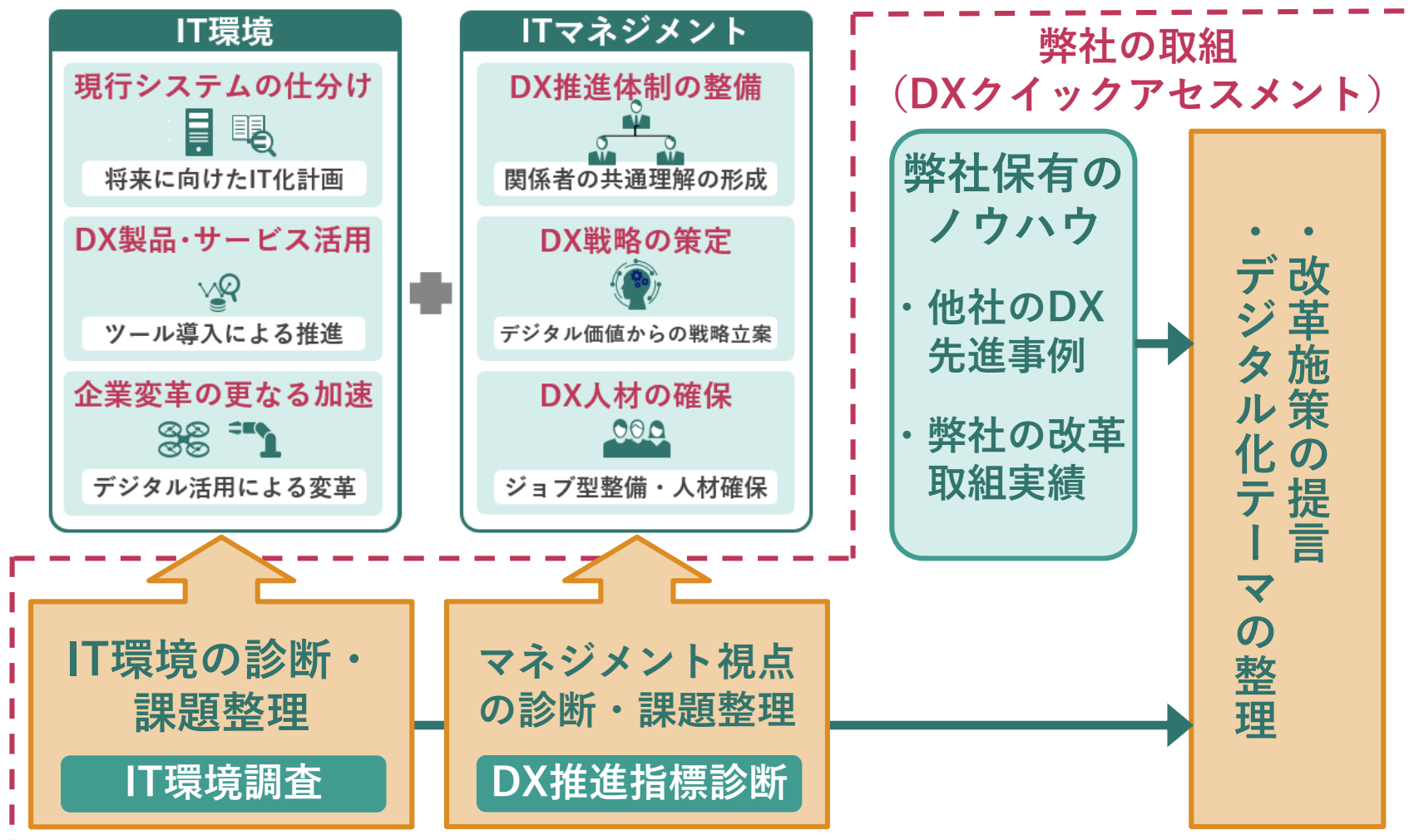
農耕型人材

- 狩猟型の人材が開拓したビジネスを定常的に回せる
- 発散力やコミット力は最強ではないが、感情と論理のバランスが良い
- 経験を積んで、時代の変化についていくことができる
- 既にある道をしっかり舗装し、歩きやすくする
- 他の人材がつくった仕組みをしっかりと実行できる
- 道があれば、しっかりその道を歩くことができる

狩猟型の人材と一緒にビジネスを実行する人材
時代の変化に適應することは大前提となる

企業の変革をご支援する弊社の取組

◆ 弊社は、DX推進に向けた企業の変革を下記のような取組でご支援

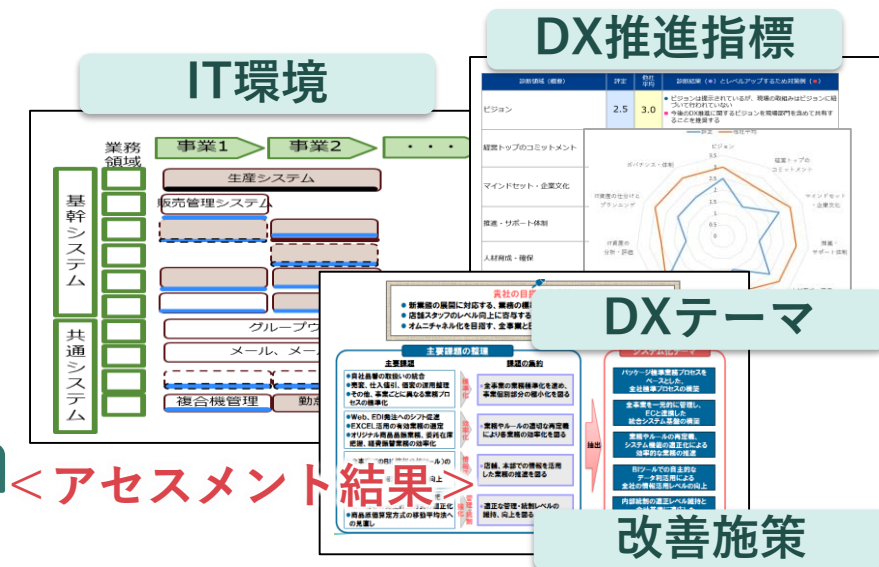
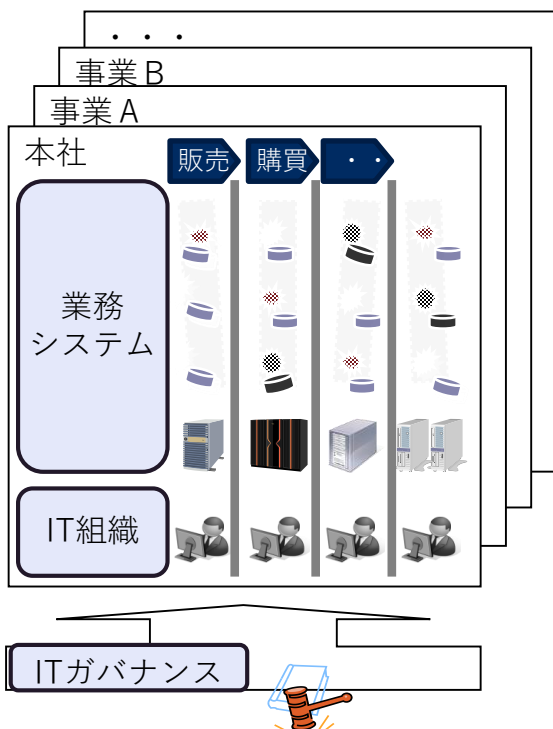


DXクイックアセスメントのご紹介

DXクイックアセスメントとは

- ◆ DXクイックアセスメントは、組織・業務・システムを俯瞰的に分析し、IT環境とITマネジメントの課題を整理
- ◆ 今後取組むべきデジタル化施策・マネジメント施策を検討するサービス

お客様の現状



<アセスメント結果>

診断による課題整理

年度	事業(費)	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
		10	20	30	40	50	60
1	顧客のニーズに応じたサービス提供の強化						
2	グループウェアの導入						
3	グループウェアの活用による業務効率化						
4	IT導入の推進						
5-1	顧客サービスの向上						
5-2	顧客サービスの向上						

<ロードマップ>

DXクイックアセスメントの特長

- ◆ デジタル経営改革のための評価指標「DX推進指標※」に基づいた、現状把握と取り組みを整理
- ◆ 今後のデジタル化テーマについて、NECグループ内に蓄積された知見やノウハウに基づいて提言
- ◆ カーボンニュートラルに貢献する、DXソリューションについても適用の効果を検討
- ◆ 貴社の検討内容の検証や、貴社内での意識レベルの整合、ベクトル合わせに活用可能
- ◆ 多岐にわたるアセスメント結果から、ITの中期計画や改善計画などの策定にも活用可能

※経産省が策定した企業のDX推進に関する自己診断用の指標

DXクイックアセスメントの進め方

◆ インタビューや各調査シートなどによる、現状調査とそれに基づく分析、ディスカッションを通じ、課題抽出・施策立案・ロードマップを策定

フェーズ	事前準備	現状調査	分析		提言	
	1～2W		2W		2W	
WS	—	キックオフ (インタビュー)	WS1	WS2	WS3	ご報告
実施 内容	- スケジュール策定 - プロジェクト体制の調整 - 各種調査依頼	- インタビュー - 業務/IT環境調査 - DX推進指標診断	- 調査結果の報告及び討議 - 問題点の抽出	- 問題点/課題整理 - 施策の検討方向性討議	- 具体施策立案 - DXテーマ整理 - ロードマップ策定	最終ご報告
貴社 作業	- ワークショップ／インタビュー日程調整 - インタビュー対象者、PJメンバ選定 - 参考資料の提示	- インタビュー対応 - 調査シート記入	- 調査内容に関するヒアリング - 調査結果報告に対するディスカッション	- 問題点の確認 - 課題と検討方向性に対するディスカッション	- 施策案に対するレビュー - 施策の優先順位に関するディスカッション - ロードマップ案に対するレビュー	報告会への出席
弊社 作業	- PJ実施案作成 - 調整事項の依頼 - 各種調査の依頼	- インタビュー実施 - 調査実施	- 調査結果の報告 - 問題点の抽出	問題点/課題と検討方向性（仮説）の提示	- 施策案の提示 - 施策の優先順位の考え方とロードマップ案の提示	報告書の提示

WS：ワークショップ（検討会） PJ：プロジェクト

調査対象と調査方法

- ◆ インタビュー、調査シートおよび事前ご提供資料から貴社状況を把握
- ◆ 各領域について、上記情報やディスカッションを通じて課題を整理

調査対象	サブ領域	インタ ビュー	調査シート		事前ご提供資料	
			IT環境 調査シート	DX推進指標 診断シート	対象	資料の例
ビジョン	➤ビジョン	ビジョンを中心に全体をお伺いします		●	●	事業計画・IT計画
コミットメント	➤トップのコミットメント			●		
仕組み	➤マインドセット・企業文化			●		
	➤推進・サポート体制			●	●	組織図・体制図
	➤人材育成・確保			●		
事業への連動	➤事業への落とし込み			●		
ITシステム構築	➤ビジョン実現の基盤構築		●	●		
	➤ITシステムに必要な要素		●	●	●	システム概要
	➤IT資産の分析・評価		●	●		
	➤IT資産の仕分け・プランニング		●	●		
ガバナンス	➤ガバナンス・体制			●		

アウトプットイメージ

— IT環境調査 —

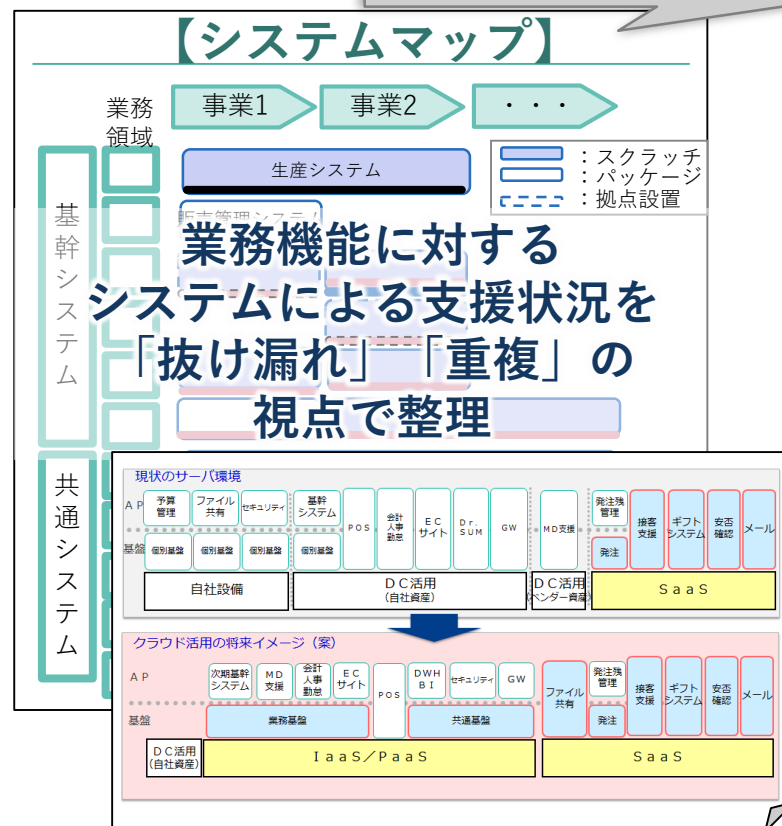
- ◆ ご提供資料やIT環境調査の確認結果から、現状の遂行業務やIT導入状況を整理、課題抽出のインプット情報として活用

＜既存ご提供資料＞
ご提供いただいた既存
の資料を参考にします

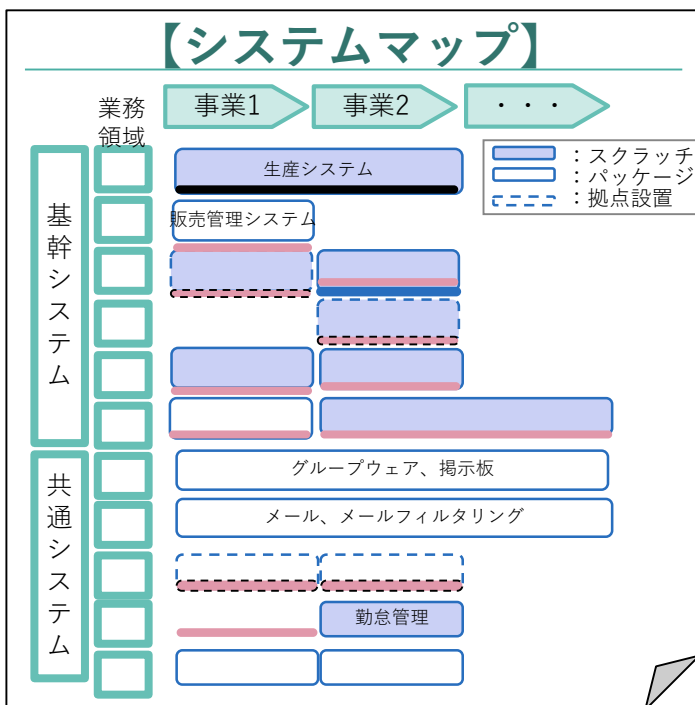
組織図
AP一覧
機能関連図 etc

＜IT環境調査＞
業務アプリケーション
とそのIT基盤の属性を
記入します

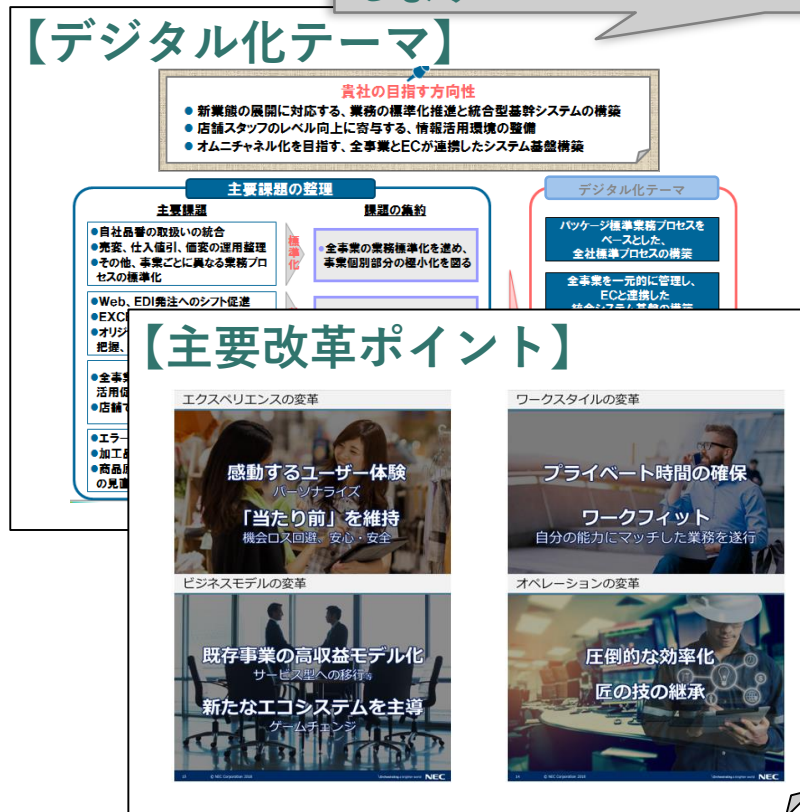
現状システムの利用状況を
マッピングし、システム
マップを作成します



- ◆ システムマップを基に、IT環境の問題点や課題について、ヒアリングを行い、今後のデジタル化テーマや主要改革ポイントを整理



業務・IT環境の課題から
デジタル化テーマを抽出
します



◆ DX推進指標について診断、課題抽出のインプット情報として活用

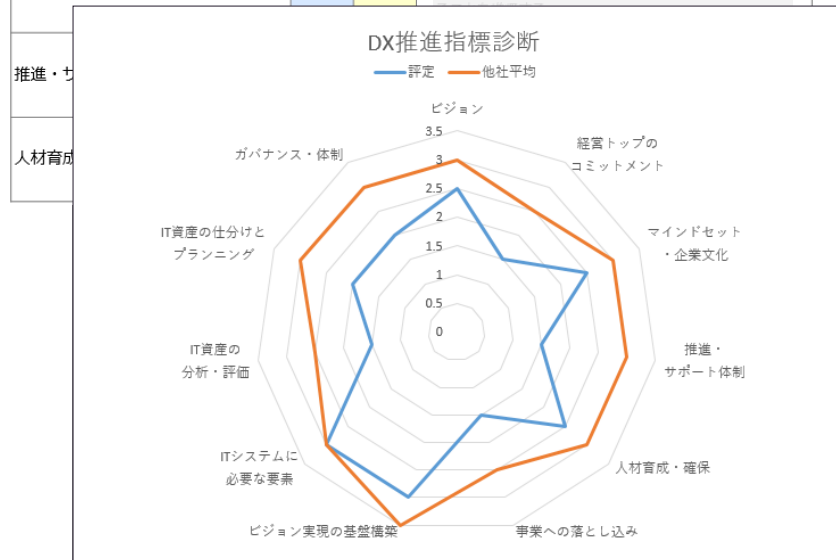
<DX推進指標診断>
DX推進の各領域別に書かれた要件について、自社の実施状況を確認します

No.	領域	要件	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
1	経営ビジョン	経営ビジョンを策定し、経営戦略と連動した経営目標を設定している。	経営ビジョンを策定している。	経営ビジョンを策定し、経営戦略と連動した経営目標を設定している。	経営ビジョンを策定し、経営戦略と連動した経営目標を設定し、経営目標を分解して実行している。	経営ビジョンを策定し、経営戦略と連動した経営目標を設定し、経営目標を分解して実行し、経営目標を達成している。	経営ビジョンを策定し、経営戦略と連動した経営目標を設定し、経営目標を分解して実行し、経営目標を達成し、経営目標を継続している。
2	経営トップのコミットメント	経営トップが経営ビジョンを推進する意思を示している。	経営トップが経営ビジョンを推進する意思を示している。	経営トップが経営ビジョンを推進する意思を示し、経営目標を分解して実行している。	経営トップが経営ビジョンを推進する意思を示し、経営目標を分解して実行し、経営目標を達成している。	経営トップが経営ビジョンを推進する意思を示し、経営目標を分解して実行し、経営目標を達成し、経営目標を継続している。	経営トップが経営ビジョンを推進する意思を示し、経営目標を分解して実行し、経営目標を達成し、経営目標を継続し、経営目標を向上している。
3	経営戦略	経営戦略を策定し、経営目標と連動した経営戦略を設定している。	経営戦略を策定している。	経営戦略を策定し、経営目標と連動した経営戦略を設定している。	経営戦略を策定し、経営目標と連動した経営戦略を設定し、経営目標を分解して実行している。	経営戦略を策定し、経営目標と連動した経営戦略を設定し、経営目標を分解して実行し、経営目標を達成している。	経営戦略を策定し、経営目標と連動した経営戦略を設定し、経営目標を分解して実行し、経営目標を達成し、経営目標を継続している。
4	経営目標	経営目標を策定し、経営戦略と連動した経営目標を設定している。	経営目標を策定している。	経営目標を策定し、経営戦略と連動した経営目標を設定している。	経営目標を策定し、経営戦略と連動した経営目標を設定し、経営目標を分解して実行している。	経営目標を策定し、経営戦略と連動した経営目標を設定し、経営目標を分解して実行し、経営目標を達成している。	経営目標を策定し、経営戦略と連動した経営目標を設定し、経営目標を分解して実行し、経営目標を達成し、経営目標を継続している。
5	経営目標の分解	経営目標を分解し、経営戦略と連動した経営目標を設定している。	経営目標を分解している。	経営目標を分解し、経営戦略と連動した経営目標を設定している。	経営目標を分解し、経営戦略と連動した経営目標を設定し、経営目標を分解して実行している。	経営目標を分解し、経営戦略と連動した経営目標を設定し、経営目標を分解して実行し、経営目標を達成している。	経営目標を分解し、経営戦略と連動した経営目標を設定し、経営目標を分解して実行し、経営目標を達成し、経営目標を継続している。
6	経営目標の達成	経営目標を達成し、経営戦略と連動した経営目標を設定している。	経営目標を達成している。	経営目標を達成し、経営戦略と連動した経営目標を設定している。	経営目標を達成し、経営戦略と連動した経営目標を設定し、経営目標を分解して実行している。	経営目標を達成し、経営戦略と連動した経営目標を設定し、経営目標を分解して実行し、経営目標を達成している。	経営目標を達成し、経営戦略と連動した経営目標を設定し、経営目標を分解して実行し、経営目標を達成し、経営目標を継続している。
7	経営目標の継続	経営目標を継続し、経営戦略と連動した経営目標を設定している。	経営目標を継続している。	経営目標を継続し、経営戦略と連動した経営目標を設定している。	経営目標を継続し、経営戦略と連動した経営目標を設定し、経営目標を分解して実行している。	経営目標を継続し、経営戦略と連動した経営目標を設定し、経営目標を分解して実行し、経営目標を達成している。	経営目標を継続し、経営戦略と連動した経営目標を設定し、経営目標を分解して実行し、経営目標を達成し、経営目標を継続している。
8	経営目標の向上	経営目標を向上し、経営戦略と連動した経営目標を設定している。	経営目標を向上している。	経営目標を向上し、経営戦略と連動した経営目標を設定している。	経営目標を向上し、経営戦略と連動した経営目標を設定し、経営目標を分解して実行している。	経営目標を向上し、経営戦略と連動した経営目標を設定し、経営目標を分解して実行し、経営目標を達成している。	経営目標を向上し、経営戦略と連動した経営目標を設定し、経営目標を分解して実行し、経営目標を達成し、経営目標を継続している。

領域毎のDX
推進度をマッピング

【DX推進指標診断結果】

診断領域（概要）	評価	他社平均	診断結果（●）とレベルアップするため対策例（■）
ビジョン	2.5	3.0	● ビジョンは提示されているが、現場の取組みはビジョンに紐づいて行われていない。 ■ 今後のDX推進に関するビジョンを現場部門を含めて共有することを推奨する
経営トップのコミットメント	1.5	2.5	● 経営は提示されているが、コミットメントは行われていない。 ■ 今後のDX推進に関するビジョンを現場部門を含めて共有することを推奨する
マインドセット・企業文化	2.5	3.0	● マインドセット・企業文化の取組みはビジョンに紐づいて行われていない。 ■ 今後のDX推進に関するビジョンを現場部門を含めて共有することを推奨する



- ◆ 現状調査で抽出された問題点から課題を整理し今後の対応施策を導出
- ◆ 施策の優先順位をつけて、ロードマップを作成

【問題点から課題を整理】

問題点の要約	課題
● 業務プロセスの改善には、中期的計画が掲げられていない ● IT部門と業務部門の連携が不十分で、業務改善が不十分 ● 新たな組織体制の構築が、中期的計画とシステム上の整合性が取れない	◆ 中長期視点でのゴールに向けた計画的なIT推進
● 新たな組織体制の構築が、中期的計画とシステム上の整合性が取れない ● IT部門と業務部門の連携が不十分で、業務改善が不十分 ● マスデータの管理部門とシステム上のルールが明確に整理されていない	◆ 全社推進を目標としたシステム化推進
● 新たな組織体制の構築が、中期的計画とシステム上の整合性が取れない ● IT部門と業務部門の連携が不十分で、業務改善が不十分 ● 新たな組織体制の構築が、中期的計画とシステム上の整合性が取れない ● 新たな組織体制の構築が、中期的計画とシステム上の整合性が取れない ● 新たな組織体制の構築が、中期的計画とシステム上の整合性が取れない ● 新たな組織体制の構築が、中期的計画とシステム上の整合性が取れない	▼ グループ全体の統括管理

調査結果から課題を抽出し、課題解決の方向性・施策を導き出します

【施策】

課題	施策とそのポイント
中長期視点でのゴールに向けた計画的なIT推進	● 施策1 将来の目標とするシステムの具体化とマイルストーンの策定 ➢ 中長期視点でシステム化を推進するために、事業の方向性と現状のキャパシティを把握し、目標とするシステムのイメージを描く ➢ 現行システムからの移行方式やステップを定める
全社推進を目標としたシステム化推進	● 施策2 グループでの業務・システムの最適化 ➢ 最適化モデルを既存のグループ内と、段階に分けて検討する
グループ全体の統括管理	● 施策3 グループを統括する管理体制の確立 ➢ システムを統括し、IT統括推進する ● 施策4 IT要員の育成強化 ➢ 新入社員の育成体制の明確化と将来の目標 ● 施策5 障害・災害対策、情報セキュリティ対策 ➢ 障害・災害の予防対策及び日計書の作成 ➢ 新たなデバイス導入による情報セキュリティ対策

【ロードマップ】

施策No	施策(要)	2012年度				2013年度				2014年度				2015年度			
		1Q	2Q	3Q	4Q	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
1	将来の目標とするシステムの具体化とマイルストーンの策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定
2	グループでの業務・システムの最適化	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定
3	グループを統括する管理体制の確立	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定
4	IT要員の育成強化	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定
5-1	障害・災害に備えた業務計画及び復旧計画の策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定
5-2	情報セキュリティ対策の強化	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定	計画策定

企業のDX推進を支援するDXクイックアセスメント

- ◆ DXクイックアセスメントは、DX推進に向けた企業の変革をご支援
- ◆ ビジネスプロセスの効率化による、カーボンニュートラルの実現に貢献



おわりに

この度は、当セミナーにご参加いただきありがとうございました。

- セミナー内容及び本資料に関するご質問等ございましたら、下記メールにてお問合せください。

uketsuke-kyushu@nes.jp.nec.com

いつかを、 いまに、 変えていく。

すべては、いつか実現したい未来を描くことから始まる。

NECソリューションイノベータは、
お客様価値を最大化するシステムインテグレータとして、
まだ見ぬサービスを生み出すバリュー・プロバイダとして、
めざす未来をともに描き、創っていきたい。

いつかを、いまに、変えていく。
私たちは常に挑戦していきます。



Orchestrating a brighter world

NECは、安全・安心・公平・効率という社会価値を創造し、
誰もが人間性を十分に発揮できる持続可能な社会の実現を目指します。



\Orchestrating a brighter world

NEC